

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

「今こそ語り合おう！これからの教員に求められる力！」(教職大学院と教育委員会の連携・協働支援事業「nits café in YAMAGUCHI」の実施)

研修行事の趣旨と構想

現在、山口県では、「教職員人材育成基本方針」において教職各ステージに求められる資質能力が明らかにされ、「若手人材育成 1000 日プラン」により初任から経験 3 年次まで継続的・系統的な人材育成が行われている。しかし、学校現場の多忙や余裕のなさ等も重なり、多くの教員が、各ステージに求められる資質能力、研修内容や機会等を、管理職や指導教員から「教えられる」こと、学校や教育委員会から「与えられる・求められる」ものとして捉えている様子も伺える。教員自身が、各ステージの資質能力やその獲得に向けた研修の在り方等について、自ら考え、他者と交える中で深く理解し、研修内容や機会を共に追い求め、キャリアデザインに応じて自ら研修の途につく人材育成の風土と環境を醸成することが必要である。

そこで、カジュアルな「café」スタイル(=本学が取り組んできた「ちゃぶ台方式による協働型教職研修」に繋がるコンセプト)の中で、教員自身が、保護者、教育関係者や教育委員会研修担当者等とともに、教員の各ステージの位置づけ、求められる資質能力や研修のあり方等を考え、キャリアデザインを描く研修行事を行うこととした。

実際には、「café」形式のグループワークを中心とし、「初任期(採用段階)」「経験 5 年目頃(若手)」「経験 10~15 年目頃(中堅)」「経験 20 年目以上(経験)」を設定し、その時期の位置づけ、求められる資質能力(学習指導、生徒指導・教育相談、組織運営、その他の 4 視点から)、研修内容や機会の構想に関する熟議と発表を行った。その後、山口県教育委員会から「教員育成指標」等に関する報告、やまぐち総合教育支援センターから「研修体系」等に関する説明を行い、総括として「教員の資質能力の向上と教職大学院と教育委員会の連携・協働」でまとめ研修行事を終了した。

研修行事の実際

1 行事名 「今こそ語り合おう！これからの教員に求められる力！」(教職大学院と教育委員会の連携・協働支援事業：nits café in YAMAGUCHI)

2 開催日時 平成 29 年 12 月 23 日(土) 9:30~12:20

3 開催場所 山口市「ホテルかめ福(紅梅の間)」(山口市湯田温泉 4-5 TEL 083-922-7000)

4 参加者 現職教員(山口・広島・福岡県より)40人(内訳:小学校 11 人、中学校 7 人、高校 7 人、特別支援学校 1 人、大学 14 人)、保護者 8 人、県・市教育委員会担当者 9 人、教職大学院生 15 人、教職員支援機構研修事業課 1 人、他大学等聴講者 9 人(埼玉大学、福岡教育大学、岩手大学、徳山大学、さいたま市教育委員会、千葉県市原市教員) 総計 82 人



5 研修内容

(1)開会行事 主催者(山口大学大学院教育学研究科)より研究科長が挨拶を行った後、概要説明と諸連絡を行った。

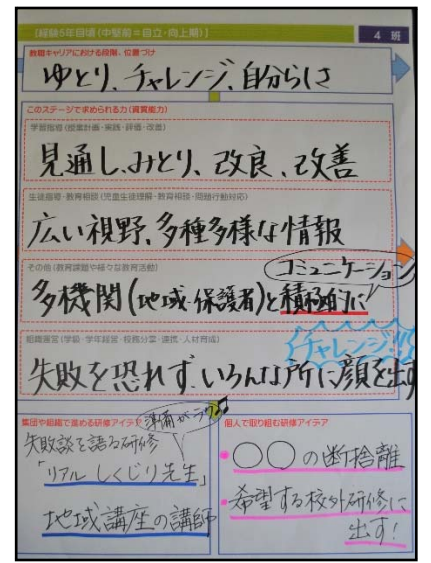
(2)班別グループワーク(café形式の熟議)

テーマを「教職各ステージに求められる資質能力と研修の構想」とし、教職ステージ計 4 期について 2 班ずつで熟議を行った。内容は順序性ある 3 課題で構成した。「課題①」~各期は「どのような時期」かを簡潔に文章表現する。その表現に教職各期の特徴、思いや期待がにじみ出る部分を大切に拾っていく。

「課題②」~各期に求められる資質能力を、学習指導(授業計画・実践・評価・改善)、生徒指導・教育相談(児童生徒理解・教育相談・問題行動対応)、その他(教育課題や様々な教育活動)、組織運営(学級・学年経営・校務分掌・連携・人材育成)という枠組みで考え、目標行動(~できる)の形で表現する。

「課題③」~それらの資質能力の獲得に資する研修や実践のアイデアを構想し提案する。その際、集団や組織の中で身につけていく力と個人で身につけていく力に整理し、ユニークで創造的なアイデアを出し合う。

各班には、およそ現職教員 3 人、保護者 1 人、教委担当者 1 人、大学教員 2 人、教職大学院生 1 人が所属したが、大変活発で熱こもった熟議が展開された。熟議の後は、各班 3 分で全体発表を行い、各期ごとの資質能力の整理を行った。



(3)報告・講評・総括

「教員育成指標と山口県の取り組み等」について、山口県教育庁教職員課人事企画班の杉原宏之主査より、「山口県の教員研修体系等」について、やまぐち総合教育支援センター企画室の河村昌子研究指導主事より、所管説明と講評を受けた。

引き続き、本学大学院教育学研究科副研究科長が「教員の資質能力の向上と大学と教育委員会の連携・協働」として総括を行った。

(4)閉会行事 教職大学院の教職実践高度化専攻の専攻長より閉会挨拶を行った後、nits アンケート、山口大学リフレクションシートにより振り返りを行い散会した。

研修行事の成果

本学の「リフレクションシート」による参加者評価は、回収 58 人の 5 点法評価で「4.74」となり、「5: 強く良かった」が 44 人を占めた。特に、「教員に加えて、教員を取り巻く多様な関係者が、多角的・多面的に教職キャリアステージに求められる力、資質能力について考えや思いを交え、教職の現状、有り様やそれに向かう工程表を、時間・場所・感情を共有して考えるプロセス自体に意義がある」という評価が多く、今後の教員研修や人材育成事業に大きな示唆を得た。「感想」の一部を紹介する。

「若い方が考えをしっかりとっていらっしゃることに驚きと安心感を覚えました。自分が 20 代の頃は...と考えました。また、いろいろな立場、視点からの考えが聞けて議論が深まりました。特に、PTA や学校運営協議会に参画されている方のお話は本当に貴重でした。(教委担当者)」、「メンバーがドンドン発言する雰囲気があり、自然に楽しく意見交換ができるので、熱く、深く議論ができると感じます。自分にはない視点にふれることは魅力的です。校内研修で「これからの教員に求められる力」というテーマでぜひ取り組んでみようと思います。(中学校教員)」、「先生方の研修回数が大変多いという話はよく聞きます。研修回数は少なくとも、今回のような先生方の気持ちや思いが存分に発揮されて、先生方の気持ちを解放・開放し、前に前にと進めるような研修が増えれば良いですね。大変良かったです。ありがとうございました。(保護者)」、「教員が、自分ごとと感じ、主体的に参画できる研修や学びの機会が大切だと感じました。現状に甘んじることなく高い意識で学び続ける姿勢を持ちたい。(教職大学院生)」